



公益財団法人

ちくご川コミュニティ財団

Chikugogawa Community Foundation

Annual Report

2025 年度 活動報告書





私たちの活動

Mission / Vision

筑後川関係地域の 「人の役に立ちたい」という 想いと活動をつなぐプラットフォーム

地域でどんなお困りごとがあるのか
それは誰か1人ではなく 地域全体の課題ではないのか
私たちの日常に 埋もれがちな社会課題を洗い出し
論理的な道筋を立て 解決に向けた事業を実践する
市民主体で 持続可能な地域を目指すために



2019年8月1日。市民ら発起人220人が集まり、福岡県初のコミュニティ財団として「一般財団法人ちくご川コミュニティ財団」が設立されました。九州最大の河川「筑後川」が流れる、福岡県全域と佐賀県東部、熊本県荒尾市・小国町・南小国町、大分県日田市を「筑後川関係地域」と呼び、事業対象としています。

子ども若者とその家庭、教育、災害など地域を取り巻く社会課題の解決に寄与します。

2025年10月30日、内閣府より認定をいただき公益財団法人として新たなスタートを切りました。





この活動報告書を手に取って読まれている皆さまへ

代表理事 / 理事長 宮原 信孝

常日頃からのご支援に心から感謝申し上げます。支援者の皆さまのお力添えでこの1年も、お話しすべきことがいくつも生れました。

2025年10月30日に弊財団は公益財団法人に移行しました。皆さまのご寄付が税控除を受けることができるようになりました。また、信用も高まりました。内閣府の新公益信託制度説明資料には弊財団が提案した例が記載されています。更に事業の中身は、休眠預金等活用事業や遺贈寄付を活用した事業に加え、久留米市との協働事業が広がり、深まってきました。弊財団独自業の奨学金事業も拡充してきています。

今世界は、自国ファースト主義がはびこっています。この主義を追及していった結果、イラン戦争が起こり、ホルムズ海峡が封鎖され、世界経済に大打撃を与えています。その打撃は、経済という抽象的なものではなく、国民一人ひとりに向けられ、被害を受けています。世界のあちこちで弱者が殺され、無視され、色々な形の被害を受けています。今本当に大事なことは、一人ひとりの命と生活に焦点をあて、そこから社会と世界を考えていくことです。

私たちの足元まできている「自分の利益をまず考える」という風潮に負けず、弊財団は、課題を抱えるお一人おひとりに寄り添い、その解決に今まで以上にしっかりと取組んで参ります。皆さま、引き続きご支援をお願い申し上げます。



スタッフ紹介

【理事・職員】

※2026年3月末現在

代表理事／理事長 宮原 信孝
副理事長／プログラムオフィサー 庄田 清人
理事／事務局長 赤司 喜一郎
理事／企画広報部長／プログラムオフィサー 柳田 あかね
理事／事業部長／プログラムオフィサー 鬼丸 武士

外部理事／池本修悟

プログラムオフィサー 小林 昇生
プログラムオフィサー補佐 石川 洸
プログラムオフィサー補佐 二村 依子
プログラムオフィサー補佐 木原 悠希
プログラムオフィサー補佐／大学生インターン 松永 朋和佳

スタッフ 牟田真奈美

【評議員・監事】

※2026年3月末現在

評議員 大内田 治男	認定 NPO 法人ワンストップリーガルネット
評議員 久原 正治	
評議員 伊佐 淳	久留米大学経済学部 教授
評議員 黒川 幸治	株式会社三和 代表取締役
評議員 江上 武幸	弁護士 江上武幸法律事務所
評議員 森 雅徳	九州メディカルサービス株式会社 代表取締役
評議員 渡邊 一生	株式会社九州都市システム 代表取締役
評議員 根木 佳織	公益社団法人 Civic Force 代表理事
評議員 才田 亜希子	株式会社ベルディオ・ファクトリー代表取締役社長
評議員 坂井尚史	
監 事 田中 健太郎	弁護士
外部監事 川野 武志	公認会計士



公益財団法人へ移行

2025年10月30日に内閣府より公益法人認定を受け、「一般財団法人」から「公益財団法人」に移行いたしました。公益財団法人とは、社会に対して公益性の高い事業を推進することを目的とした法人のことです。第三者委員会による公益性の審査を経て、行政庁から公益認定を受ける必要があります。

また、公益財団法人へのご寄付は税制上の優遇措置を受けることができます。寄付控除を利用する際は、弊財団が発行する寄付受領証明書（領収書）が必要になりますので、保管いただきますようお願いいたします。詳しくは国税庁のウェブサイトまたは最寄りの税務署でご確認ください。

大盛況！感謝のつどい

2026年3月8日、公益財団法人化記念イベント「感謝のつどい」を開催しました。会場の久留米シティプラザとオンラインから、あわせて70名様がご参加。いつも私たちの活動を応援してくださる寄付者様や地域の方々、団体の皆様へ感謝の気持ちをお届けしました。

イベントのメインプログラムは、社会起業家の白井智子さんによる記念講演です。「子どもの多様な学びを地域で守る」をテーマに、基調講演をいただきました。

子どもの教育や不登校の家庭支援を専門とする、白井さん。2003年には、大阪で国内初の公設民営フリースクールを設立されました。「どんな環境に生まれても必要な教育支援とつながれるように。学びの選択肢がない子どもをゼロにするために。重層的にみんなで作っていきましょう。」と参加者に呼びかけられました。

最後は、副理事長の庄田とのクロストークや著書へのサイン会も実施しました。

その他にも、財団メンバー全員によるご挨拶や国際色豊かなグルメのおもてなしや事業報告、伴走団体様や奨学生の子どもたちからのメッセージ展示などで盛り上がりました。

たくさんの方に支えられ、今年度も地域の社会課題解決に向けた事業を進めることができました。心より御礼申し上げます。



▶ JICA 海外協力隊帰国隊員社会還元表彰を受賞

日本のODA実施機関として開発途上国への国際協力を行なっている、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施するJICA海外協力隊事業において、「第3回帰国隊員社会還元表彰」が行われ、副理事長の庄田清人が「地域活性化賞」を受賞しました。

帰国隊員社会還元表彰は、JICA海外協力隊経験者で、帰国後に社会課題の解決に取り組んでいる人物を表彰するものです。2025年7月に東京で開かれた表彰式ならびに受賞者プレゼンに、庄田が出席しました。

庄田は2014年、JICA青年海外協力隊としてアフリカのマラウイ共和国に派遣。理学療法士としてのスキルを活かしながら、保健医療活動やスポーツを通じた地域の活性化などに取り組みました。帰国後はちくご川コミュニティ財団に入職し、プログラムオフィサーとして地域の団体や個人への伴走を通して、社会課題解決に取り組んでいることが評価されました。



▶ 地域を支える仕組みが評価 PO チーム 村井吉敬賞を受賞

ちくご川コミュニティ財団のプログラムオフィサー（PO）チームが、国際ボランティア学会による2025年度「村井吉敬賞」を受賞しました。本賞は、市民社会やボランティア分野において意義ある実践を行った団体・個人に贈られるものです。表彰式は、2026年度の国際ボランティア学会で行われる予定です。

POチームが取り組んできた「資金だけでなく団体や個人に伴走する支援の仕組み」が評価されました。地域の中で小さく始まった活動が、社会全体へと広がる動きを生み出してきました。今回の受賞は、「活動そのもの」だけでなく「それを支える仕組み」の重要性が認められたものと受け止めています。



国際ボランティア学会の中村安秀会長と
ちくご川コミュニティ財団インターンの松永朋和佳
(2026年3月 立教大学池袋キャンパス)



～個人・法人サポーター様からの声～



ありがとうストーリー

【個人サポーター様】



身近な問題の解決の糸口を考えて下さってる方針に共感をし、みんなで少額ずつでも支援を重ねることが出来れば良いなと思い、寄付させて頂きました。
自己責任論に寄りすぎない社会をみんなで作っていかれたらと思います。

ハマダ・ヒロ様



高齢者となった今、少しは社会貢献もしたいと思い、とあるご縁のあった貴財団を応援することとしました。
計画的、安定的な財源となり得るかなと思いマンスリーサポーターとなりました。
今、熊本で生活しておりますが、久留米に生まれて過ごした30年余り、筑後川流域はふる里そのものです。
貴財団の人の輪が広がり、組織も益々大きくなる様期待しております。

豊福 士文様



健康も、子育ても、地域づくりも、一人では育ちません。
人と人とのつながりが、新しい可能性を生み、未来を育てていく。その輪を広げてくださるちくご川コミュニティ財団の活動に共感しています。
私もその輪の一人として、これからも応援し続けます。

大嶋 裕美子様



【法人サポーター様】



ちくご川コミュニティ財団の活動を知って、寄付に対しての見方が大きく変わりました。

特に、子ども若者への奨学金給付に強く共感します。良い取り組みですね。
また、団体への助成についても財団からの伴走があることがすごいと思います。
お金を出して終わりじゃない。団体運営も支えているところが魅力です。
私たち企業こそが、若い人の将来を支えていくべきだと思います。
そのために、財団を応援しています。

ワイ・エス・インベストメント株式会社
代表取締役 志岐 芳徳 様



奨学金事業

子どもの多様な学びの場を保障する基金

2024年2月1日、協働パートナーの株式会社西日本新聞社とクラウドファンディング賛同者200名様の想いを集め、不登校の子どもの多様な学びを支える基金を設立しました。本基金ではフリースクール等を利用する不登校の子ども（6～18歳）を対象とした給付型奨学金事業を運営し、奨学生を「たまきちゃんクラブ」と呼んでいます。基金設立後、福岡県大野城市が県内初となるフリースクール等利用者向け補助金制度を創設。その後、久留米市や古賀市などにも同様の制度が広がりました。



いくた こうへい ひろこ

生田幸平・裕子基金

不登校の子どもたちの学びを支えるために、生田様ご夫妻によって設立された基金です。「学校に行けなくても、学びを通じて社会に貢献し、未来を切り拓く人に育ってほしい」という願いが込められています。

本基金では、中学生以上（12～18歳）を対象に、オルタナティブスクールやフリースクール等の利用を支援する奨学金を給付し、一人ひとりに合った学びの環境づくりを後押ししています。小学生以上を対象とする「たまきちゃん基金」と連携し、こちらは「たまきちゃんのお兄さん・お姉さん基金」として、子どもたちの多様な学びを支えています。



たまきちゃん白書クラウドファンディング目標達成

「たまきちゃん白書で不登校への理解と行動を広げたい！」プロジェクトは2025年3月31日、クラウドファンディングの寄付募集を終了しました。100万円の目標達成後、ネクストゴールもご支援の輪が広がり、総額1,160,000円のご支援が寄せられました。

ご寄付いただいた126名のサポーターさま、SNS等で情報のシェアにご協力いただいた皆さま、応援して下さったすべての方々に心より御礼申し上げます。

白書発行がゴールではありません。白書を活用して、地域や行政やたくさんの方々とともに、不登校の子どもや家庭の声、子どもの多様な学びについて伝え、社会みんなで考えるための活動が始まります。

白書発行イベント開催

2025年8月29日、福岡市の六本松蔦屋書店にて「たまきちゃん白書発行＆『「居場所」難民一報道記者が見た不登校の深層一』出版ダブル記念トークイベント」（主催：ちくご川コミュニティ財団、六本松蔦屋書店／協力：学びリンク株式会社）を開催しました。

タグを組んで歩んできた、ちくご川コミュニティ財団副理事長の庄田清人と、『「居場所」難民一報道記者が見た不登校の深層一』著者で西日本新聞編集委員の四宮淳平さんが対談しました。ご用意していた30名分のお席はほぼ満席となり、書店利用の方も会場のまわりで立ち見されるなど、たくさんの方々に関心をお寄せいただきました。本に囲まれながら開放的な空間で、書店ならではの雰囲気味わいながらイベントをお楽しみいただきました。

ご来場いただいた皆様、六本松蔦屋書店様、学びリンク株式会社様、四宮淳平さん、そして、たまきちゃん白書の発行を支えてくださった皆様、誠にありがとうございました。

開催レポートはこちら ▼



たまきちゃん応援チャリティイベント

2025年12月21日、久留米市の西田体育館で、寄付月間賛同企画「たまきちゃん応援チャリティイベント」を開催しました。このイベントは、学校に行けない・行かない子ども（不登校の子ども）の学びを支える「子どもの多様な学びの場を保障する基金」（たまきちゃん）を通して、寄付がもたらす社会の幸せについて学んでもらおうと、ちくご川コミュニティ財団が企画しました。

私たちの想いに共感してくださった、ビーチバレーボール日本代表で福岡市を拠点に活躍する高橋巧プロを講師にお迎えし、バレーボールのミニゲームなどを交えながら寄付について楽しく学びました。

チャリティイベントご参加の皆様、一緒に寄付について楽しく学んでいただき誠にありがとうございました。また、本イベントにご協力いただきました、久留米市バレーボール協会様、久留米バレーボールクラブ様、スポルディング・ジャパン株式会社様に厚く御礼申し上げます。そして、高橋巧さん、私たちの想いに賛同いただきイベントにたくさんのお力添えをいただき、ありがとうございました。

寄付を通して社会課題解決に取り組むちくご川コミュニティ財団は、寄付月間とともにこれからも筑後川関係地域に伴走して参ります。

開催レポートはこちら ▼



「みんなのたまきちゃん」2年間掲載完了

西日本新聞暮らし面で掲載していた「みんなのたまきちゃん」。3月15日掲載をもって、2年間の連載が終わりました。副理事長の庄田清人と、理事・企画広報部長の柳田あかねが交代で月1回寄稿して参りました。

最終回は、不登校の子ども freeschool 利用料等を補助する奨学金「子どもの多様な学びの場を保障する基金（たまきちゃん）」誕生から2年間を振り返りました。

「私たちの言葉を通して、子どもの学びの選択肢を地域で広げたい。」
「不登校の家庭が社会から孤立しないようにしたい。」
そんな思いで、ペンを握り続けてきました。

いつも記事をご覧いただいた皆様、そして、寄稿を2年間支え続けてくださった西日本新聞編集委員の四宮淳平さんに心より御礼申し上げます。





ありがとうストーリー



(一部抜粋)

息子は小学校2年生のときにオルタナティブスクールを選びました。当初は反対していた父に対して、ヤギや鶏、羊、海や山の絵をスケッチブックに描き、自分なりのプレゼンテーションをしました。

「ぼくは自由を探していた。でも、いつもの学校にはぼくが探しているものはなかった。新しい学校には自由があった。ぼくはここでやりたいことを思いっきりやってみたい。」

そう、力強い声で伝えてくれたことを、今でもよく覚えています。

こうして応援してくださる方々がいらっしやと思うと、仲間ができたようで心強く感じました。「楽しいことをして、人の役に立てる大人」になれるよう、これからも支えていきたいと思います。

奨学生(10代)の保護者

家族や学校の友だち以外にも、私を応援してくれる人がいることが分かりました。今回のことをきっかけに家族とも話し合い、中学生向けフリースクールに卒業まで通えることが決まって、安心しました。また、話すことに少し自信が持てるようになり、学校のイベントで実行委員をやってみました。

苦手だと思っていたけど、やってみると大変でしたが楽しくて、そのあとクリスマス会の実行委員にも手を挙げました。本当にありがとうございました。

奨学生(10代)

私自身、シングルマザーで2人の子供を育てておりますが、考えないようにしていてもお金の事が一番の不安で余裕のない日々を過ごしておりました。お金が足りないから休みの日にも仕事を増やし、収入を得ようとしても無理してしまうと体調を崩してしまう。と悪循環な事も悩みの1つでした。

昨年、息子の居場所が見つかり頑張って自転車で通学している姿を見ると、卒業までこのまま通えるように応援したいという気持ちと同時に、毎月の学費の工面に心労しておりました。

奨学金をお受けできることを心より感謝申し上げます。

奨学生(10代)の保護者

この制度がなければ、無理やり学校に行かせることになったり、自宅学習になったりしていたかもしれません。



娘は夏休みにはフリースクールに通いたいとのことですので、その際にはまたお世話になるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

本当に感謝しております。

奨学生(小学生)の保護者

通信制の高校の説明会に参加し、少しずつですがフリースクールを卒業してからの進路を本人も考え始めているようです。

先輩が通信制の高校に行っている姿を見ていること、そして、同級生と一緒に高校進学について考える機会が得られていることなどが影響して前向きに進学を考えられるようになっていっているように感じます。

奨学生(10代)の保護者

いつもありがとうございます。

フリースクールに通うようになってから一カ月半がたち、慣れて楽しく通っています。

今月は初めて在籍校のテストを体験する予定です。

週四日通えるのも、ご支援のおかげです。

ありがとうございます。



奨学生(小学生)の保護者

学費満額の支払いが困難で、長きに渡り学内の貸付支援制度を利用して今日まで何とか頑張ってきました。

こちらの奨学金を支払いに充てることができとても嬉しく大変ありがたく思っています。

保護者と教師のたゆまない情熱と大きな愛情の中、子ども達はその子らしい輝きを増しながら伸びやかに成長していく姿を見ていて、「もっと多くの子ども達に金額のハードルなくこの教育を選択してもらいたい、この教育の場を必要とする子ども(=保護者)がいる限りなくす訳にはいかない」と感じています。

奨学生(10代)の保護者

フリースクールでの生活は、大きな成長につながった1年間でした。

支援していただけたのおかげで通うことができました。

本人の成長としては、小学校低学年の子供たちのお兄ちゃんとして学童のサポートや休み時間に遊んであげ、保育の道も興味をもったこと、3学期に学校の良さを外部の方に伝えるプレゼンを行い、自分でスライドを作りお客さんに学校の良さを伝えることができ、「小学校のときはお母さんの後ろに隠れていた僕でしたが、こうやって前に出て発表できるようになりました」と報告できたこと、

これはすごく成長した出来事だねとスタッフと感動を共有しました。

私が親の介護で仕事を減らさざるおえないところもあり、奨学金は本当に助かりました。

奨学生(中学生)の保護者

おかげさまで親子ともどもメンタル的な安心を得られて非常に心強かった次第です。

ありがとうございました。

近頃の私立中学のオープンスクールに参加したことをきっかけに勉強に注力することになりました。急激に勉強をし始めており、フリースクールに行く時間も惜しんで学習に励むようになったのですが、如何せん遅れた分を取り戻すにあたって家庭だけでは追いつけないため、本人希望もあって塾に通うことを決めました。

両親揃って想定外のことに驚きながら、本人の意志を尊重しつつ見守っています。

奨学生(小学生)の保護者



遺贈寄付 - ご遺産を地域の未来に遺す -

「財産を生まれ育った故郷のため、地域の子どもの未来のために役立てたい」「故人の想いを寄付という形で地域に遺したい」など、ご自身の遺産を社会のために役立てたいとお考えの方は、ぜひご相談ください。

少額からのご寄付や冠基金の設立も承っております。ちくご川コミュニティ財団は全国レガシーギフト協会の加盟団体です。福岡県で唯一の「いそぐ寄付の窓口」として遺贈寄付を希望するご意思に寄り添い、安心してご相談いただける取り組みを行なっています。



ご相談の流れ

1. 弊財団遺贈寄付窓口担当者によるヒアリング

まずは「お問合せフォーム」またはお電話にてご相談ください。遺贈寄付を検討されている方、相続財産やお香典・お花料からの寄付を検討されている方に丁寧にヒアリングさせていただきます。お名前や金額の公表の可否も細かくお伺いいたします。

2. 計画書を作成します

【遺言による財産の寄付／相続財産からのご寄付】

ご本人様、故人様、ご遺族様の「寄付をこういうふうに残したい」という想いに沿って準備を進め、計画書を作成します。遺言書の書き方などを含めてご相談されたい場合、全国レガシーギフト協会のネットワークを活かして遺贈寄付に精通する専門家におつなぎいたします。

【お香典やお花料からのご寄付】

専用のお申し込みシートをメールまたは郵送にてご送付いただきます。お香典、お花料をお寄せいただいた方々への「お礼状データ」も用意してございます。データを無料でご提供いたしますのでお申し付け下さい。

3. 感謝と報告をさせていただきます

ご寄付が完了されましたら、作成した計画書に基づいて活用させていただきます。弊財団よりご寄付の活用状況をご報告させていただきます。

当財団ではさまざまな形で遺贈寄付を受け付けています



ご本人の遺言によるご寄付

遺言によって、遺産の一部またはすべてを当財団にたくわえていただく方法です。



相続財産からのご寄付

ご両親など故人から相続された財産をご寄付いただけます。



お香典・お花料からのご寄付

故人の温かいお気持ちを会葬者の皆さまにお伝えできます。

遺贈寄付ストーリー

これまでに遺贈寄付やお香典による寄付などで、私たちに想いを託してくださった方々をご紹介します。

<遺言によるご寄付>

「社会の子育てをしたい」という想いを「子ども若者基金」に

「私の遺したものが現場で活動する人たちの助けになり、その先にいる子どもたちや若者たちの役に立つと思えたとしめじみと幸せだなあ」

ちくご川コミュニティ財団への遺贈寄付を決めたF・S様は、病気の過酷な痛みにも耐えながらこうつぶやきました。幼くして過酷な日常に身を置く子どもたちが、虚々とその人生を生きていることへの敬意と、その子どもたちを支える「現場」を何より尊重する遺贈者の思いが、この基金に込められています。



<お香典によるご寄付>

「被災された方々へ 寄り添って」

94歳で逝去された、三好美智子様。献身的で穏やかな方で、御子息が経営する会社で毎日来て仕事を手伝い、社員の皆様にあたたかくやさしい微笑で見守ってくださいました。

2023年7月、九州北部で記録的大雨災害が発生。社員の方が学生ボランティアとともに、福岡県久留米市で災害支援活動をしていることを話すと、被災された方々に心を痛め「その方々へ寄り添って、頑張ってください」と声をかけられていました。

ご遺族様はお母様のご意思を受けて、過夜葬儀で寄せられたお香典から、ちくご川コミュニティ財団の災害支援基金へ浄財をお寄せくださいました。



はじめての一步を専門家と学ぶ 遺言書作成ワークショップ

9月18日、久留米市内で「遺贈寄付ウィーク2025」イベントを開催しました。ちくご川コミュニティ財団は、毎年遺贈寄付ウィークに合わせて遺贈寄付者の方へ感謝の気持ちを込めてイベントを企画しています。

今年は、全国レガシーギフト協会と共催で「遺言書作成ワークショップ」を開催。20～70代の10名にご参加いただきました。遺言書の完成を目指すのではなく、遺言書の作成プロセスを体験することで、自分の想いを整理したり遺言書を身近に感じていただいたりする機会にしよう！という目的で開催しました。

開催レポートはこちら ▼



遺贈寄付の取り組み 番組配信中

ケーブルテレビ J:COM が配信する番組「終活手帳」で、ちくご川コミュニティ財団が取り上げられました。

故 F・S 様の御遺贈で設立された「子ども若者基金」や私たちの役割について、副理事長の庄田清人がお話しさせていただきました。

動画は以下のQRコードを読み取ってご覧ください。▼



小郡市発行の冊子に掲載

福岡県小郡市が2月に1万部発行した「相続贈与ガイドブック」に、当財団の遺贈寄付の取り組みについて掲載されました。財産を残す方、受け継ぐ方両方の「困った」に寄り添い、地域の社会課題解決につなげる私たちについて、丸々1ページご紹介いただいています。





休眠預金等活用事業

休眠預金等活用事業とは

休眠預金等活用事業とは、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」（休眠預金等活用法）に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上その後の取引のない預金等（休眠預金等）を、社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度です。



2020年から資金分配団体を継続

私たちの休眠預金等活用事業のあゆみ

ちくご川コミュニティ財団は休眠預金等活用事業における「資金分配団体」として、2020年より社会課題の解決のために活動する団体の活動の公募審査や資金助成を行っています。また実行団体の持続可能性を高めるための組織基盤強化や環境整備などの伴走支援、事業の成果や波及効果を可視化するための社会的インパクト評価などにも取り組んでいます。

これまで6つの事業を運営。28団体とともに、社会課題解決に向けた成果を上げて参りました。

2025年からは、九州初の「活動支援団体」も務めており、民間公益活動の担い手または、将来的に担い手を目指す団体（以下「支援対象団体」）に対して、事業実施や組織運営に係る課題解決に向けて、伴走支援を行っています。支援対象団体への助成金の交付はなく、事業運営や組織基盤強化、財源確保の課題解決のために、専門的なアドバイス等の非資金的支援に特化しています。

ちくご川コミュニティ財団では、非営利組織運営や資金調達、評価などの専門知識と実績のある「プログラムオフィサー」が、チームで休眠預金等活用事業を担当しています。

ちくご川コミュニティ財団ウェブサイトの「休眠預金等活用事業ページ」では、日々の活動報告など詳しい情報を掲載しています。下記のQRコードを読み取ってご覧ください。



伴走支援をするプログラムオフィサーチーム



2023 年度 通常枠事業

困難を抱える家庭を取り残さない仕組みづくり ～子ども若者とその家族のためのコレクティブインパクト～

子どもや若者自身だけではなく「家庭」そのものに焦点を当てた、包括的な支援事業です。福岡県久留米市、佐賀県鳥栖市など久留米市周辺地域で活動する6つの実行団体に、3年間で総額1億480万円の助成と伴走支援を実施します。困難を抱えた家庭への訪問支援やイベントなどのアクセス活動、支援を必要とする家庭を把握するため様々な関係者との情報共有を適切に行うアセスメント活動、家庭に必要な支援を届けて子ども若者とその家族の生活の質の向上を目指すアプローチ活動を行います。これらの活動を通して、コレクティブインパクトチームの立ち上げを行い、困難を抱えた家庭を取り残さない仕組みづくりを目指します。

※コレクティブインパクト=企業・行政、CSOなどセクターを超えて知識や技術を持ち寄って協力し、社会的なインパクト(影響)を出すこと。

実行団体名【主な活動地域】



一般社団法人 産前産後サポーター協会
【福岡県小郡市】



お母さん大学福岡(ちっこ)支部
【福岡県久留米市】



一般社団法人 umau.
【福岡県久留米市】



いろいろ
【佐賀県鳥栖市】



特定非営利活動法人 にじいろCAP
【福岡県久留米市】



特定非営利活動法人 久留米市手をつなぐ育成会
【福岡県久留米市】

第一回 地域円卓会議開催

2025年11月16日、久留米リサーチパークにてちくご川コミュニティ財団と6実行団体による「チームアンバイザー」が、「地域でつくる切れ目ない子ども・子育て支援」をテーマに、筑後川関係地域における子ども支援・子育て支援の現在地と課題を市民とともに共有し、考える場として第一回地域円卓会議を実施しました。地域円卓会議とは、「誰かの困りごとを地域の課題として情報共有し対話や協働を目指す場」です。特定のテーマについて多様な立場の人が集まり、情報提供をし合うのが特徴で、賛成派または反対派に分かれた議論はしません。

子ども支援や子育て支援の現場では、困りごとが複合化する一方で、制度や支援資源が点在し、必要な情報が届きにくい・つながりにくい状況が見えています。こうした現状をチーム内だけで抱え込まず、地域の課題として共有し、次の協働につなげる対話の場をつくりたいという思いから、地域円卓会議の開催を企画しました。着席者(センターメンバー)は、子どもの居場所支援団体、子育て支援団体、行政、学識者など、日頃から支援や制度に関わる関係者で構成し、一般参加は子ども支援や子育て支援に関心のある方を広く募りました。「民×民の協働による器」として、地域の声を集約し、社会に説明責任を果たしていくという次の目標も明確になりました。



ちくご川コミュニティ財団ウェブサイトにて「開催報告書」を掲載しています。

右記のQRコードを読み取ってご覧ください。





2024 年度 通常枠事業

ひとりひとりに合った多様な学びを支える地域共生事業 ～お互いが伸ばし合う手を結ぶ支援と信頼の構築～

ちくご川コミュニティ財団と一般社団法人家庭教育研究機構（福岡県飯塚市）による、コンソーシアム事業です。ちくご川コミュニティ財団と家庭教育研究機構は、2021年度休眠預金活用事業（通常枠）で協働し、学校に行けない・行かない子ども（不登校の子ども）の多様な学びを守る事業で成果を出した一方、「支援を受けることができず家にいる子ども達とどのように繋がるか」という課題を見つけました。そこで、学校内外で支援を受けていない不登校の子どもとその保護者を中心に、「アウトリーチ」「地域」「学びの場（校内外のフリースクール等）」の3つの柱で事業を運営します。福岡県において、子どもひとりひとりが自分に合った多様な学びを見つけ、柔軟に学び続けられる地域社会を目指します。

実行団体名【主な活動地域】



一般社団法人 KATARU
(コンソーシアム:公益財団法人筑後市文化振興公社)
【福岡県筑後市】



労働者協同組合ワークスコープ・センター事業団
西ふくおか事業所
【福岡県福岡市】



認定特定非営利活動法人
ミタイ・ミタクニヤ子ども基金
【福岡県福岡市】



ほしのこども学舎
【福岡県久山町】



一般社団法人 Omuta BRIDGE
【福岡県大牟田市】

キックオフ&ワークショップイベント開催

2025年10月1日、博多バスターミナルにて本事業開始にあたるキックオフイベントを開催し、ふくおか共育コンソーシアムと5実行団体で取り組む約3年間の事業について発表しました。キックオフイベントは43名様にご参加いただき、東京からJANPIAの担当POさんにもお越しいただきました。

また、同日と2026年2月16日の2回にわたり、実行団体の皆さまと一緒に事前評価ワークショップを実施しました。関係者分析を更新し、課題を見つめ直しながらロジックモデルをブラッシュアップ。「評価＝価値を見える化すること」を合言葉に、事業の妥当性や指標を丁寧に確認しました。

ランチ交流会は、家庭教育研究機構が運営するフリースクール「みんなのおうち」の子どもたちが作ってくれた、素敵なくじ引きで席決め。5つの実行団体さんと一緒に、ワイワイ楽しく盛り上がりました。





2024 年度 活動支援団体による支援対象団体への非資金的支援事業

筑後川関係地域の子ども若者支援の持続可能性向上プログラム ～次世代に想いと活動をつなぐ組織基盤強化と環境整備～

ちくご川コミュニティ財団は、団体が抱える事業実施や組織運営に係る課題の解決を目的に専門的なアドバイスや支援を行う「活動支援団体」に、九州で初めて採択されました。民間公益活動の担い手になることを目指して、活動支援団体による支援を受ける「支援対象団体」へ、約3年間の非資金的伴走支援を提供します。

筑後川関係地域で、子ども若者とその家庭支援活動をする民間公益活動団体が対象です。資金的支援（助成金の交付）はありません。非営利組織の専門家による事業計画の設計、人材確保、広報戦略の確立などの総合支援を通して、団体の力を高めます。さらに、中核リーダーの育成を重点課題と位置づけ、リーダー層へのスキル移転や権限委譲を促進します。事業終了から5年後には、団体において人材の循環が生まれ、組織・事業・財源の持続可能性が高まり、子どもや若者に関する社会課題が解決されやすい地域となっていることを目指します。

実行団体名【主な活動地域】



不登校・ひきこもり家族の会
「ふきのとう」【福岡県大牟田市】



つながるツリーハウス
【福岡県八女市】



特定非営利活動法人
フリースペース よつば【福岡県朝倉市】



特定非営利活動法人
舞台アート工房・劇列車【福岡県久留米市】



NPO 法人 アコア
【福岡県福岡市】



けいちくトイロ
【福岡県行橋市】



特定非営利活動法人 風のアオライ
【福岡県福津市】



NPO 法人子どもパートナーズ HUG っこ
【福岡県古賀市】

事業開始 キックオフイベント開催

2025年11月21日、福岡市博多区にて本事業開始にあたるキックオフイベントを開催し、プログラム全体の説明や8団体による活動内容、課題、そしてプログラム期間中の伴走支援で目指す姿について発表を行いました。キックオフイベントはオンラインを含めて30名様にご参加いただき、東京からJANPIAの担当POさんにもお越しいただきました。

参加団体が「次世代の担い手を確保し、事業承継ができる組織」になることを大きな目的としている本プログラムでは、次世代が仕事として関われる財源を確保できるよう、「組織」「事業」「財源」の3要素を一体的に発展させる視点で伴走支援を行っていきます。具体的には、組織基盤強化、事業強化、財源強化、環境整備といった多角的な支援を行い、各団体の持続可能な発展を後押ししていくことをイベントを通して共有しました。また、イベント終了後には交流会も開催し、参加者間の親睦も深まる良い機会となりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。





新規事業

市民活動の「続ける力」を育てる

久留米市から「久留米市市民活動・多様な資金調達応援事業」を受託し、市内で活動する市民活動団体の資金調達力・組織基盤の強化に取り組みました。

ちくご川コミュニティ財団のファンドレイザーやプログラムオフィサーによる全6回の資金調達セミナーの開催や、市民団体への6か月間の個別伴走支援を実施。寄付や事業収入、助成金など多様な資金調達の方法に加え、SNS等を活用した広報や寄付者への感謝・報告など、実践的なノウハウを提供しました。

地域の社会課題に取り組む団体が、活動を持続していくための「資金」と「組織」の基盤づくりを支えています。



「誰かの役に立ちたい」を地域の力へ

2025年度、財団独自の新事業「Social Flow Bridging Program」(ソーシャルフロウブリッジングプログラム)をスタートしました。

JICA海外協力隊OVや地域おこし協力隊、有資格者、企業人材、大学生、退職者など、年齢問わず多様な経験やスキルを持つ人材を、ボランティアやプロボノとして登録・育成し、地域の社会課題に取り組むNPO等のニーズとマッチングする仕組みです。事業運営や対人支援、広報、バックオフィスなど、団体が必要とする力と「経験やスキルを地域のために活かしたい」という人の想いをつなぎます。地域にある多様な人材を社会課題解決の力へと変えていく、新たな橋渡しに取り組んでいます。

今年度は、休眠預金等活用事業の支援対象団体などニーズのあった団体と人材をマッチング。団体運営に欠かせないバックオフィススキルや、国際色豊かな体験活動の提供などをいただきました。





報道実績

2025年

- 4月20日 西日本新聞朝刊くらし面 C F 成功に感謝
【みんなのたまきちゃん⑬】
- 5月18日 西日本新聞朝刊くらし面 子どもの不登校に伴う保護者のケアについて
【みんなのたまきちゃん⑭】
- 7月16日 西日本新聞朝刊九州経済面 帰国の協力隊員7人表彰
JICA 経験を社会に還元 庄田清人受賞
- 7月20日 西日本新聞朝刊くらし面 給付1年 感じる効果
【みんなのたまきちゃん⑮】
- 8月1日 ケーブルテレビJ:COM 最期まで自分らしく生きる活動～終活Ⅳ～【終活手帳】
- 8月17日 西日本新聞朝刊くらし面 不登校支援の現在地
【みんなのたまきちゃん⑯】
- 9月21日 西日本新聞朝刊くらし面 生命力があるれる子ども
【みんなのたまきちゃん⑰】
- 10月2日 西日本新聞福岡県版 不登校支援、5団体と協力 久留米の財団などが新事業
- 10月19日 西日本新聞朝刊くらし面 何のための運動会？
【みんなのたまきちゃん⑱】
- 11月13日 西日本新聞朝刊 海外で培った経験で地域に恩返し【JICA 広告記事】庄田清人インタビュー
- 11月16日 西日本新聞朝刊くらし面 ゼロから企画した修学旅行
【みんなのたまきちゃん⑲】
- 12月11日 西日本新聞朝刊社会面 市民団体と専門人材つなぐ 久留米の財団がマッチング
- 12月21日 西日本新聞朝刊くらし面 ファンドレイザーの役割
【みんなのたまきちゃん⑳】

2026年

- 1月18日 西日本新聞朝刊くらし面 米国の通信制高校へ
【みんなのたまきちゃん㉑】
- 2月15日 西日本新聞朝刊くらし面 資源ごみ回収で団体維持
【みんなのたまきちゃん㉒】
- 2月16日 長野日報 世界で得た知見 地域に 駒ヶ根で国際フォーラム 庄田清人登壇
- 2月20日 中日新聞 地域の多文化共生を考える
- 3月12日 西日本新聞朝刊福岡県版 「子どもの学びに選択肢を」 不登校支援 必要性訴え
- 3月15日 西日本新聞朝刊くらし面 誕生2年 325万円を給付
【みんなのたまきちゃん㉓】
- 3月24日 NHKラジオ放送第一 Nらじ 「途上国の支援経験を地方活性化に」庄田清人出演





財務報告

第7期（2025年4月～2026年3月）の財務報告です。

寄付金や助成金など、社会の皆さまから託された資金をどのように受け入れ、地域の課題解決に向けた事業や助成に活かしたのか。財団の一年間の活動を、財務の面からご報告します。

令和7年度 正味財産増減表
自2025年4月1日 至2026年3月31日

[単位：円] 2026.4.1				
科 目	7年度実績	6年度実績	増 減	
1. 一般正味財産の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	5,957	1,621	4,336	
基本財産受取利息	5,957	1,621	4,336	
特定資産運用益	14,528	4,917	9,611	
特定資産受取利息	14,528	4,917	9,611	
事業収益	2,300,000	0	2,300,000	
受託事業	2,300,000	0	2,300,000	
その他の事業収入	0	0	0	
受取補助金等振替額	(a) 103,891,332	138,150,485	-34,259,153	
国庫補助金	0	0	0	
民間助成金	103,891,332	138,150,485	-34,259,153	
寄付金振替額	5,558,849	5,374,296	184,553	
子ども若者応援援助成	1,669,239	2,395,214	-725,975	
災害支援	98,539	110,165	-11,626	
たまきちゃん	2,416,735	2,445,802	-29,067	
生田幸平・裕子基金	1,374,336	43,115	1,331,221	
財団応援寄付	2,326,000	1,333,000	993,000	
財団応援寄付	2,326,000	1,333,000	993,000	
雑収入	1,151,796	271,267	880,529	
受取利息	1,196	366	830	
雑収入	1,150,600	270,901	879,699	
雑損失	0	70	-70	
支払利息	0	70	-70	
営業外損益	1,151,796	271,197	880,599	
経常収益 計	(e) 115,248,462	145,135,516	-29,887,054	
(2) 経常費用				
事業費	111,068,775	142,889,994	-31,821,219	
役員報酬	3,315,500	1,912,000	1,403,500	
給料手当	19,720,545	18,801,272	919,273	
法定福利費	2,195,360	2,279,821	-84,461	
業務委託費	1,309,173	391,400	917,773	
旅費交通費	1,938,120	1,662,512	275,608	
旅費交通費(通勤手当)	795,517	575,541	219,976	
通信費	339,771	263,271	76,500	
期成金	71,075,836	109,557,235	-38,481,399	
奨学金	2,620,498	1,958,345	662,153	
会議費	786,687	558,334	228,353	
地代家賃	570,000	540,000	30,000	
水道光熱費	201,033	135,555	65,478	
消耗品費	255,032	323,982	-68,950	
租税公課	1,573	751	822	
研修費	131,138	328,265	-197,127	
事務用品費	445,000	314,601	130,399	
事務機リース料	44,204	58,102	-13,898	
広告宣伝費	2,066,199	1,877,245	188,948	
支払手数料	2,944,866	1,079,784	1,865,082	
振込手数料	111,472	59,513	51,959	
諸会費	102,750	145,375	-42,625	
新聞図書費	96,457	63,030	33,427	
雑費	2,050	4,960	-2,910	
管理費	3,231,533	3,153,605	77,928	
役員報酬	134,500	368,000	-233,500	
給料手当	1,330,327	1,480,869	-150,542	
福利厚生費	6,282	5,282	0	
法定福利費	215,432	193,527	21,905	
旅費交通費	183,883	21,123	162,760	
旅費交通費(通勤手当)	41,867	234,477	-192,610	
通信費	187,729	179,104	8,625	
交際費	3,300	6,325	-3,025	
会議費	13,533	17,537	-4,004	
地代家賃	30,000	60,000	-30,000	
水道光熱費	10,521	30,744	-20,223	
消耗品費	33,699	42,244	-8,545	
租税公課	69,812	22,101	47,712	
事務機リース料	2,326	6,455	-4,129	
広告宣伝費	246,247	153,927	92,320	
支払手数料	636,254	212,451	423,803	
振込手数料	30,066	85,804	-55,738	
諸会費	29,250	15,000	14,250	
雑費	27,504	18,635	8,869	
経常費用計	(d) 114,300,308	146,043,599	-31,743,291	
当期一般正味財産増減額	(a)-(c)-(d)		1,856,237	
一般正味財産期首残高	(e)	2,707,750	-908,083	
一般正味財産期末残高	(f)=(a)+(d)	1,799,667	948,154	
2. 指定正味財産の部				
指定正味財産期首残高(休眠預金)	102,219,442	141,526,654	-39,307,212	
受取補助金等	34,447,059	98,843,273	-64,396,214	
指定正味財産期末残高	(a)	102,219,442	-69,444,273	
当期指定正味財産増減額	(b)	138,150,485	-108,402,650	
指定正味財産期首残高(子ども若者)	1,673,024	4,039,238	-2,366,214	
受取寄付金等	(c)	29,000	-29,000	
指定正味財産期末残高	(i)	1,673,024	-1,669,239	
当期指定正味財産増減額	(j)	2,395,214	-2,395,217	
指定正味財産期首残高(災害支援)	201,333	272,920	-71,426	
受取寄付金等	(k)	38,578	-38,578	
指定正味財産期末残高	(l)	201,333	-98,539	
当期指定正味財産増減額	(i)	110,165	1,626,033	
指定正味財産期首残高(たまきちゃん)	1,568,198	3,331,000	-2,618,584	
受取寄付金等	(m)	683,000	463,426	
指定正味財産期末残高	(n)	1,558,198	-1,270,309	
当期指定正味財産増減額	(n)	2,455,802	-2,017,475	
指定正味財産期首残高(生田幸平裕子基金)	5,586,885	0	5,586,885	
受取寄付金等	(o)	6,000,000	-4,800,000	
指定正味財産期末残高	(o)	5,586,885	-174,336	
当期指定正味財産増減額	(p)	413,115	320,794	
(3) 正味財産期末残高	(f)+(i)+(k)	113,038,549	-71,708,542	

資料 3-2

令和7年度 貸借対照表
令和8年3月31日現在

2026/3/31

科 目		当年度期首	当年度期末	(単位: 円)	
I 資産の部				増	減
1. 流動資産					
現金		3,346	0		-3,346
小口現金		583	0		-583
当座預金		479,626	102,929		-376,697
普通預金		266,288	355,272		88,984
未収入金	(f)		2,500,000		2,500,000
前払費用	(g)	351,363	417,693		66,330
貯蔵品	(g)	4,354	4,784		430
流動資産合計		1,105,560	3,380,678		2,275,118
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
普通預金		3,004,813	3,000,000		-4,813
基本財産合計	(a)	3,004,813	3,000,000		-4,813
(2) 特定資産					
休眠預金等活用事業助成金	(b)	7,064,150	5,807,017		-1,257,133
特定資産合計	(c)	62,523,004	32,775,169		-29,747,835
特定資産合計		69,587,154	38,582,186		-31,004,968
(3) その他固定資産		0	0		0
敷金		0	0		0
その他固定資産合計		0	0		0
固定資産合計		72,591,967	41,582,186		-31,009,781
資産合計	(d)	73,697,527	44,962,864		-28,734,663
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払費用		2,548,548	2,515,149		-33,399
未払金		0	714,589		714,589
短期借入金		0	120,000		120,000
預り金		484,317	278,119		-206,198
前受金		5,000	5,000		0
流動負債合計		3,037,865	3,632,857		594,992
2. 固定負債					
固定負債合計		0	0		0
負債合計	(e)	3,037,865	3,632,857		594,992
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
基本財産運用益		69,587,154	38,582,186		-31,004,968
受取助成金		62,523,004	32,775,169		-29,747,835
受取寄付金		7,064,150	5,807,017		-1,257,133
(内、基本財産への充当額)	(f)	0	0		0
(内、特定資産への充当額)	(g)	69,587,154	38,582,186		-31,004,968
2. 一般正味財産					
一般正味財産合計	(f)=d-b-c-e	1,072,508	2,747,821		1,675,313
(内、基本財産への充当額)	(f)	0	0		0
(内、特定資産への充当額)	(f)	0	0		0
正味財産合計	(b)+(c)+(f)	70,659,662	41,330,007		-29,329,655
負債及び正味財産合計	(b)+(c)+(f)+(g)	73,697,527	44,962,864		-28,734,663
負債及び正味財産合計(ベース)	(b)+(c)+(f)+(g)-(g)	73,341,810	42,040,387		-31,301,423

※ 2025年10月30日の公益財団法人への移行に伴い、移行時点（2025年10月29日現在）と年度末時点（2026年3月31日現在）の貸借対照表を掲載しています。

資料 3-2

令和7年度 貸借対照表

2026/3/31

科 目	当年度期首	当年度期末	増 減
(単位: 円)			
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	3,346	0	-3,346
小口現金	583	0	-583
当座預金	479,626	102,929	-376,697
普通預金	266,288	355,272	88,984
未収入金	(g)	2,500,000	2,500,000
前払費用	351,363	417,693	66,330
貯蔵品	4,354	4,784	430
流動資産合計	1,105,560	3,380,678	2,275,118
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	3,004,813	3,000,000	-4,813
基本財産合計	(a) 3,004,813	3,000,000	-4,813
(2) 特定資産			
寄付入金等(子ども被害・災害復興・たきやみ・生活困窮)	(b) 7,064,150	5,807,017	-1,257,133
休職預金等活用事業助成金	(c) 62,523,004	32,775,169	-29,747,835
特定資産合計	69,587,154	38,582,186	-31,004,968
(3) その他固定資産			
敷金	0	0	0
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	72,591,967	41,582,186	-31,009,781
資産合計	(d) 73,697,527	44,962,864	-28,734,663
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	2,548,548	2,515,149	-33,399
未払金	0	714,589	714,589
短期借入金	0	120,000	120,000
預り金	484,317	278,119	-206,198
前受金	5,000	5,000	0
流動負債合計	3,037,865	3,632,857	594,992
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	(e) 3,037,865	3,632,857	594,992
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本財産運用益	69,587,154	38,582,186	-31,004,968
受取助成金	62,523,004	32,775,169	-29,747,835
受取寄付金	7,064,150	5,807,017	-1,257,133
(内、基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
(内、特定財産への充当額)	(69,587,154)	(38,582,186)	-31,004,968
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	(f)=d-b-c-e 1,072,508	2,747,821	1,675,313
(内、基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
(内、特定財産への充当額)	(0)	(0)	0
正味財産合計	(b)+(c)+(f) 70,659,682	41,330,007	-29,329,675
負債及び正味財産合計	(b)+(c)+(f)+(e) 73,697,527	44,962,864	-28,734,663
負債及び正味財産合計(ベース)	(b)+(c)+(f)+(e)-(g) 73,341,810	42,040,387	-31,301,423

資料3-2'

令和7年度 貸借対照表

令和7年10月30日

科 目	当年度期首	当年度期末	増 減
(単位: 円)			
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0	3,346	3,346
小口現金	0	583	583
当座預金	317,424	479,626	162,202
普通預金	545,442	266,288	-279,154
未収入金	(g) 6,000	0	-6,000
前払費用	334,084	351,363	17,279
貯蔵品	8,894	4,354	-4,540
流動資産合計	1,211,844	1,105,560	-106,284
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	3,002,486	3,004,813	2,327
基本財産合計	(a) 3,002,486	3,004,813	2,327
(2) 特定資産			
寄付入金等(子ども被害・災害復興・たきやみ・生活困窮)	(b) 9,019,440	7,064,150	-1,955,290
休職預金等活用事業助成金	(c) 102,219,442	62,523,004	-39,696,438
特定資産合計	111,238,882	69,587,154	-41,651,728
(3) その他固定資産			
敷金	0	0	0
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	114,241,368	72,591,967	-41,649,401
資産合計	(d) 115,453,212	73,697,527	-41,755,685
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	2,163,617	2,548,548	384,931
未払金	0	0	0
短期借入金	0	0	0
預り金	246,046	484,317	238,271
前受金	5,000	5,000	0
流動負債合計	2,414,663	3,037,865	623,202
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	(e) 2,414,663	3,037,865	623,202
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本財産運用益	111,238,882	38,073,685	-73,165,197
受取助成金	102,219,442	34,447,059	-67,772,383
受取寄付金	9,019,440	3,626,626	-5,392,814
(内、基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
(内、特定財産への充当額)	(111,238,882)	(38,073,685)	-73,165,197
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	(f)=d-b-c-e 1,799,667	1,072,508	-727,159
(内、基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
(内、特定財産への充当額)	(0)	(0)	0
正味財産合計	(b)+(c)+(f) 113,038,549	70,659,682	-42,378,867
負債及び正味財産合計(ベース)	(e)+(f)-(g) 115,104,234	73,341,810	-41,762,424

【収益の内訳について】

第7期（2025年4月～2026年3月）の経常収益は、合計115,248,462円でした。そのうち9割にあたる103,891,332円は、「休眠預金等活用事業助成金」として過去に受け入れた資金を、指定された事業のために本年度使用した金額です。

このほか、寄付者の皆さまからの寄付金5,558,849円、財団の活動を継続的にご支援いただく「財団応援寄付」2,326,000円、受託事業による事業収益2,300,000円などが、地域の課題解決に向けた一年間の活動を支えてくださいました。

【費用の内訳について】

経常費用は合計114,300,308円でした。

そのうち62.2%にあたる71,075,836円を、地域で活動する団体や個人への助成金として活用しました。残りは、事務局の運営を担うスタッフの人件費26,916,946円（23.5%）、旅費交通費や広告費、振込手数料などの事業運営に必要なその他運営費13,687,028円（12.0%）、緊急的な支援にあてた支援金2,620,498円（2.3%）となっており、皆さまから託された資金の多くが直接的な助成・支援活動に活かされていることがお分かりいただけます。



私たちの活動を支えてくださった企業様、団体様、自治体様

2025年度もちくご川コミュニティ財団の事業を支えていただき、ありがとうございました。順不同でご紹介させていただきます。

RITAWORKS

 西日本新聞社

 nuweb

おなか元気ぐるーぷ

 congrant

ワトナス



JANPIA

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

久留米市

久留米市市民活動サポートセンターみんくる

久留米大学

福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん

特定非営利活動法人 佐賀県CSO推進機構

公益財団法人 Civic Force

一般社団法人 全国コミュニティ財団協会

一般社団法人 全国レガシーギフト協会

寄付月間共同事務局



サポーター様 ご芳名

2025年4月1日～2026年3月31日にご寄付をいただきました個人サポーター様、法人サポーター様をご紹介します。私たちの活動に心強いご支援を賜り、誠にありがとうございました。

※五十音順、敬称略。広報物への掲載承諾をいただいている方のみ。

池本修悟 伊佐淳 板橋幸治 井手宗一郎 井波春奈 梅本健介 江崎修一 川嶋亜基夫
荻野和正 加藤紀子 上平菜々美 川嶋睦己 川野武志 久原正治 沖田絵里 小林隆利
才田亜希子 齋藤寛子 坂井淳彦 坂井尚史 坂井勇介 坂井恵 坂井翔建 庄田はつみ
四宮淳平 白井智子 豊福士文 西尾知子 野田昌子 藤田幸子 山村晃司 吉竹千保
水元晶子 宮原サラ 宮原愛也 森山智雄 山北洋二 山路健造 帆足梓 西園緑

アウリオン合同会社 リタワークス株式会社

医療法人 心信会 池田バスキュラーアクセス透析内科

医療法人MC会 またけ胃腸内科クリニック 医療法人フォーチュンなかがわ整形

一般社団法人SDGs未来ラボ 学びリンク株式会社 株式会社九州都市システム

有限会社あねがわOAシステム 有限会社ジパング不動産情報

有限会社みつひろ事務所

匿名寄付 個人サポーター：15 法人サポーター：3

合計 個人サポーター 55 名様 法人サポーター 14 法人様



ちくご川コミュニティ財団を利用したい方へ

CSO(市民社会組織)の方へ

NPOやボランティア団体など、市民活動に取り組む団体を資金・非資金の両面からサポートします。助成金による資金支援をはじめ、寄付を集めるためのファンドレイジング(資金調達)、団体や活動を知ってもらうための広報、組織基盤強化、人材育成など、団体の課題に応じた伴走支援を行っています。ファンドレイザーや評価士、産業カウンセラー、プログラムオフィサーなど、非営利組織の運営を支える専門性を持つスタッフが在籍しています。

【活用事例】

- ▶ 助成事業への公募申請 ▶ クラウドファンディングなど資金調達の伴走支援 ▶ セミナーや研修への参加
- ▶ 広報、ファンドレイジング、組織運営などの相談・伴走支援 ▶ 企業や行政、地域のさまざまな資源とのマッチング

企業の方へ

企業の皆さまの「地域のために何かしたい」という想いを、地域が必要としている支援へつなぎます。寄付や基金の設立だけでなく、企業の強みや人材、商品・サービスなどを活かした地域貢献、社員研修、プロボノ・ボランティアなど、多様な協働の形をご提案します。「何から始めたらよいかわからない」という段階からでもご相談いただけます。私たちが、企業様の地域貢献のコーディネート役を務めます。

【連携事例】

- ▶ 災害時や地域課題に取り組む団体や個人への寄付、物品寄贈 ▶ 社員プロボノ、ボランティアのコーディネート
- ▶ SDGs、地域課題、寄付などをテーマとした社内研修、講演

《CASE 01》

映画鑑賞券を困難を抱える子ども若者と家族へ寄贈

2026年3月公開の映画「えんとつ町のプペル～約束の時計台～」の映画鑑賞券540枚をご寄贈いただきました。財団とつながりのある15の市民団体を通じて、困難を抱える子ども・若者とその家族へ届けたほか、奨学生とその家族にもお届けしました。映画館へ行くこと、家族で同じ時間を過ごすこと。そんな体験の機会そのものが、誰かにとって大切な贈りものになります。企業や有志の皆様から寄せられた「誰かの役に立ちたい」という想いを、必要としている人へ。財団のネットワークを活かして橋渡しします。御礼とご報告もさせていただきます。



《CASE 02》

地域課題を「知る」ことから始める企業研修

九州労働金庫久留米支店推進委員会様主催の研修会で、「筑後川関係地域の社会課題」をテーマに副理事長の庄田清人が講師を務めました。地域で起きている課題の背景や財団の取り組みを紹介しながら、参加者の皆さまと地域課題に対する社会的金融の意義について考えました。地域貢献への第一歩は、まず地域で何が起こっているのかを知ることから。社員向け・幹部層向け研修や講演など、ご要望に合わせて企画します。



行政の方へ

「市民主体の持続可能な地域」の実現に向けて、行政の皆さまと連携し、筑後川関係地域の社会課題解決に取り組めます。地域のCSOや企業、寄付者などとのネットワークと、民間ならではの機動力・専門性を活かし、制度設計から事業の実施、伴走支援まで、それぞれの地域の課題に応じた協働を行います。

【協働事例】

- ▶ ガバメントクラウドファンディングの伴走支援 ▶ 市民団体向けセミナーや伴走支援の企画運営
- ▶ 資金調達、広報、人材育成などの組織基盤強化支援 ▶ 補助金や施策等の制度設計・見直し
- ▶ 地域円卓会議など対話の場の企画運営 ▶ ワークショップ等のファシリテーション

マンスリー サポーター 募集中



マンスリーサポーターは「支援者」ではありません。

筑後川関係地域の人を支え、社会と一緒に動かす「協働者」です。

毎月
1,000円
から



市民主体で、活動が続いていく地域へ。

子ども若者とその家族が、孤立しない地域へ。災害に強い、支え合う地域へ。

多くの人が、マンスリーサポーターとして少しずつ関わることで、実現します。

月額はいつでも変更・停止できます。できる範囲のご参加から大丈夫です。

▶ 決済方法

おすすめは、クレジットカードです。自動引き落としでご負担なく継続できます。

一時休会や退会は、いつでもできます。PayPay、銀行振込、郵便振替（手数料負担なし）、現金も承ります。

▶ 種別

法人サポーター、個人サポーター（匿名寄付も承ります）

▶ 金額

（毎月）1,000 円、3,000 円、5,000 円、10,000 円

※一括年払いも可能です。ご希望の場合は、コングラントの寄付お申し込み画面で

「今回のみ」を選択してください。

▶ お申し込み方法

右記QRコードから寄付決済サービス「コングラント」より好きなタイミングでお申し込みください。オンラインでのお申し込みが難しい場合は、弊財団にご連絡ください。



私たちへのご寄付は税制優遇（寄付金控除／損金算入）対象です

ちくご川コミュニティ財団は、2025年10月30日に内閣府より公益法人認定を受け「一般財団法人」から「公益財団法人」に移行いたしました。優遇措置を受けたい場合は、弊財団が発行する領収書が必要となります。

●個人のご寄付

2つの方式（税額控除／所得控除）のうち、どちらかメリットの大きい方を選択できます。確定申告が必要です。

●法人のご寄付

一般寄付金の損金算入限度額とは別に、特別損金算入限度額の範囲内で損金算入が認められます。



公益財団法人 ちくご川コミュニティ財団

〒830-0048 福岡県久留米市梅満町 563

☎ 0942-34-5600

📠 0942-34-5777

✉ info@c-comfund.com

🌐 <https://c-comfund.com/>

2026年8月発行 印刷所：有限会社あねがわOAシステム